

News Letter

2018.11
Vol. 15

Contents

- 厚生労働省事業に採択されました
- キャリアに関する問題解決型実践授業
- イクメンパパを紹介します
- 第2回ヘルスケアダイバーシティ学会

厚生労働省平成30年度 女性医師等キャリア支援事業に採択されました



女性医療人キャリア支援センターは、厚生労働省の「平成30年度女性医師等キャリア支援事業」に採択されました。この事業は、毎年全国から2機関のみ選定されますが、そのうちの1機関となり、本学では初めてです。

また、事業では「普及推進可能な効果的支援モデル」の構築が求められており、平成26年度に設置した女性医療人キャリア支援センターでのキャリアアップ・復職支援の基盤整備に加え、大分県下の医療機関・関連団体等とも連携し、多様な医療や医師等のニーズに応じたオーダーメイドのキャリア支援制度の構築により全ての医療人にとって働きやすい職場環境整備に取り組みます。

事業の詳細についてはセンターHPをご覧ください。



レポート

キャリアに関する問題解決実践型授業が行われました

医学教育センター中川幹子先生のご担当で6月29日・7月13日に開催された医学部医学科・看護学科の1年生を対象とした合同授業で、「健康科学概論」のキャリアに関する問題解決実践型授業を見学してきました。

授業の内容は、16班を2つに分けて事前に渡されたテーマについて、KJ法と二次元展開法を用いてグループ討論したものを発表するようになっていました。テーマは、1～8班は「将来、医療人として活動する我々が、現時点で身につけるべき資質とは」について、9～16班は「医療人として男女共にキャリアを継続するためには何が必要か」についてです。1つ目のテーマである「現時点で身につけるべき資質とは」では、コミュニケーション能力・人間力が大事という意見が多くグループから上がっており「他人への気配りや思いやりを見つけれられるよう意識して行動する」との意見でまとまっていた。2つ目のテーマは、今までの健康科学概論の授業の内容(男女共同参画・プロフェッショナリズム・キャリアパスに関する講義)が活かされたものとなり、育休からの復職支援体制についての意見が多く出されていました。

また、発表に対する質問やコメントも活発に出ており、活気あふれる授業でした。今回の授業から、学習支援システムmoodleを利用して発表への投票が行われ、学生たちが選んだベストの班が選出されました。

学生たちは、この授業を通じて、キャリアパスにおける問題について早くから意識することの大切さを感じているようでした。

授業風景



イクメンパパを紹介します

大分大学医学部附属病院で働く男性医療人の育児休業取得についてのインタビューをお届けします。
今回は、附属病院看護部手術室に看護師として勤務する野上さんにお話を伺いました。

Q. 育児休業(以下育休)取得の期間ときっかけは？

A. 通常の休日に育休3日間をプラスして合計5日間取得しました。
育休を取ったのは第3子の誕生ですが、昨年から出来た男性職員の育児制度により、5日間まで有給になるということと、上の子どもを気にせずに妻がゆっくり赤ちゃんとの時間を過ごせるようにと思い育休を取得することにしました。

Q. ご家族の反応はいかがでしたか？

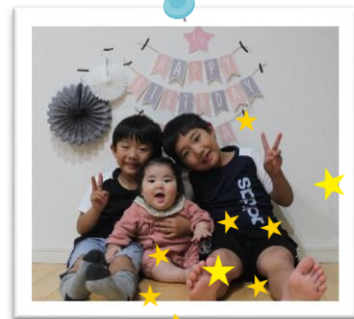
A. 妻は赤ちゃんのお世話を集中できたと言ってくれました。上の子どもは、2人とも男の子で6歳と8歳なのですが、幼稚園や小学校の送り迎えにお父さんが来ていると嬉しそうでした。また、男3人で遊べるのも楽しそうでした。

Q. 職場の反応・理解はどうでしたか？

A. 連続して休みを取るのので、看護師長には早めに相談をしました。看護師長、看護部長とも理解・応援していただきました。また、同僚は女性が多いのですが、みんな好意的で育休取得を応援してくれたので、取得しやすかったです。
育休と休む理由もはっきりしているのも良かったです。

Q. 最後にひと言お願いします

A. 普段、見る事の出来ない子ども達の一面を見れてよかったので、これからパパになる男性職員の方にも、どんどん育休を取得してほしいと思います。育休制度を取得してみたことは、現行で取得できるのが、子どもが3ヶ月になるまでに連続して5日間となっているので、分割して休めるようになればよいと思いました。
また、取得の期間も子どもが1歳まで延長されると利用しやすいと思います。

**男性の育児休業について**

平成29年4月より男性職員の育児休業制度ができて、男性の育児休業が5日まで有給となりました。内容等についてお知りになりたい方は当センターまでお問合せ下さい。

**ご報告****第2回日本ヘルスケアダイバーシティ学会で
松浦副センター長が発表しました**

2018年7月29日(日) J:COMホルトホール大分にて、第2回日本ヘルスケアダイバーシティ学会が開催されました。

日本ヘルスケアダイバーシティ学会とは、ヘルスケア領域にダイバーシティの理念を導入し、ヘルスケアダイバーシティの学問体系を確立して課題と展望を明らかにして、ヘルスケアダイバーシティ文化の醸成と普及・啓発、国民への貢献を目的として設立されたものです。

学会当日は、副学長・男女共同参画推進担当でもある松浦副センター長が「女性医療人の働き方の諸問題」の題で大分大学医学部附属病院における働き方や男性育児休業取得、各種制度などの問題点とその解決のための施策について発表しました。

**お知らせ**

12月13日(木) 13時~16時30分臨床中講義室にて医学部4年生の「キャリア教育」を行います。

授業見学ができますので、是非、ご参加ください。

注) 13:35~14:40の時間帯はチュートリアル室でグループ討論を行っていますが、見学は可能です。